NPOカフェ まんまる

つながろう！コラボしよう！元気な“ながの”をつくろう！

まんまる

No.4
'15 春

・・・・NPO・市民協働情報誌

市民協働サポートセンター
TEL.026-223-0051 FAX.026-223-0052
〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぷら座 3F
npo@nagano-shimin.net http://naganoshimin.naganoblog.jp

特集「元祖NPOカフェまんまる」からドラマが生まれる

びんずる市実行委員会企画

にぎわいは「市民の力」から
もんぜん町〝ながの〟の「魅力発信」

毎月開催している「NPOカフェまんまる」は、長野市内でNPO活動やまちづくりに取り組んでいるキーマンに企画をお願いし、様々なテーマで参加者同士の交流を創っています。平成27年2月は「身近な場所で〝ながの〟の魅力を発信する」と題して、善光寺境内で「びんずる市」を主催する箱山正一さんがファシリテーター（司会）を務めました。

まず箱山さんから「びんずる市」を始めるきっかけとなったエピソードを紹介。実家は善光寺界隈でふとん店を営んでいるが、親世代から「善光寺と商店は別物」という雰囲気を感じていたと言います。同級生の住職から「お寺の中で定期市をやりたい」という声掛けに二つ返事で応えたそうです。京都の知恩寺をモデルに、25年6月からスタートし、毎月第2土曜日に開催。日用雑貨、野菜、お菓子から芸術アート作品まで、出店者が心を込めて「手づくり」したものが集まり、「回を重ねる毎にお客さんからの期待も大きくなってきている」と語りました。

交流タイムでは、今年から長野駅前で「街なか市場」を開いている齊藤幸代さんが「イベントの継続には、若い世代の力をどう巻き込むかがポイント」と発言。他の参加者からは戸隠などの観光地や農村部とのつながりを活かして、「長野ならでは」のイベントアイデアも出されました。長野の魅力を発信する場づくりを市民が主役となりどう進めていくか、参加者それぞれが考える機会となりました。

（センター長　山室秀俊）

特集「元祖NPOカフェ」からドラマが生まれる

出会いがあなたを待っている！

NPOや市民活動家が企画実行する「元祖NPOカフェまんまる」。環境・健康・IT・子育て・災害・まちづくり・高齢者支援など、毎回さまざまな市民が集まって出会い学び、時には笑ったり涙を流したり…。毎回、「まんまるテーブル」からさまざまなドラマが生まれます。今年度も楽しい企画満載。ぜひお越しください。企画募集中！

NPO青空の会企画

あなたはつながっていますか？

1月19日のNPOカフェまんまるは、昨年11月22日に発生した地震で被害の大きかった鬼無里地区で町おこし活動をする「NPO青空の会」が企画。鬼無里地区などの地域おこし協力隊員も参加しました。「緊急事態に直面した時、コミュニティは機能したの?」をテーマに、これからの地域コミュニティについて考えました。

まず、参加者それぞれから地震発生時について「西和田ではブロック塀が結構倒れた。なかなか情報が入ってこなかった。自主防災組織が機能していないと実感した」「家族がバラバラだと大きく不安になる。近所同士はなんのやりとりもなかった」などが報告されました。

鬼無里の地域おこし協力隊員は「かなり被害がひどかった。住民は〝まさか地震が来るなんて〟と、なかなか安否確認や協力態勢がとれなかった。意識していないこと自体が怖いと感じた。都会のほうが、防災意識が強いのでは」と、現状を訴えました。青空の会代表の清水正広さんは「かつて鬼無里には結(ゆい)という住民同士の絆があった。年寄りは頑固になり、人口が減ると心が荒んでいく」と問題を指摘。対策としてコミュニケーションがとれ関係が築ける場の設定が必要との意見が多く出ました。たとえば青木村の「若者会議」。農業体験など、都市と地域の人をつなぐ活動も。「既存のコミュニティとは違う斜めの関係づくりがポイントで、ますますNPOの力が必要」とみんなが再認識しました。

NPO法人ライフデザインセンター企画

自分らしい生き方をみつめる

人生の最期をどう迎えるか。いわゆる「終活」サポートを13年に渡りやってきたライフデザインセンターの企画です。若い人から退職者まで8名が参加し、世代を超えて「生き方」を見つめる交流会をしました。

代表理事の小川和子さんは、まず子どもを、長野から都市で進学させるのに1人1500万円かかること。老後2人で暮らすのに月25万円から35万円かかること。老後100歳まで生きるとざっと1億円かかり、年金を差し引いて、退職する60歳の時点で残金3000万円では足りないことを話すと、参加者からため息が漏れました。

そのために、若いうちから資金計画を立てて生活すると、お金のことを心配せずに人生を送ることができること。亡くなる際の葬儀やお墓の問題や財産分与のための遺言状作成の必要性や、延命治療についても「自身が書き残しておくべき」と強調しました。

また「人は生まれる時も死ぬ時も人に世話にならなければならない。こどもには、いざというときはお願い、と頼んでおくこと」と話し、昔は7人家族が当たり前だったが、今は「家族」の形が変化している。自分の人生をしっかり考えることが必要になってくることを説明しました。

20代の参加者は「家族のことも含めて、人生設計をしっかり立てて生活していこうと思う」。60代の女性は「若いころにお金を使って遊んでしまった。ぜひ若い人には今から考えて欲しい」との感想が聞かれました。

最後に小川さんから「人生を長いスパンで考えていくことをお勧めする。私達NPOにぜひ相談を」と話し、参加者もほっとした様子でした。

忍者ウォーク2015開催

「〝忍者のふるさと・ながの〟から、忍者の心を持った人を増やすことで、自分の願いを叶え、みんなが元気と思いやりの心でつながり、幸せを感じて生きることができる世界を築こう！」と立ち上がったのが〝ながの忍者をふやそう大作戦〟です。イベント活動を通して、子どもたちに〝忍者の心〟を伝えています。

5月2日（土）、NAGANOアート・プロジェクト実行委員会主催のイベント「ながの街なか美術館」で、「忍者ウォーク2015」を開催する予定です。

忍者ウォーク 2015 ボランティア参加者募集！

今年で3回目となる忍者ウォークでは、これまで以上にたくさんのボランティアが参加し、子どもたちが楽しみながら、市民や観光客と交流していただける仕掛けを準備する予定です。

善光寺御開帳に合わせて、歩行者天国となる中央通りを中心に、南長野北石堂町から善光寺、桜江町までのルートを〝忍者五つのつとめ〟を習得しながら楽しく巡ります。思い思いの忍者の装いで家族そろってご参加ください。また、ながの忍者をふやそう大作戦に関わった人たちの〝忍者の心〟の結晶（イベントやグッズ販売による収益金）は、「ハート手裏剣寄付」として、市内NPO団体の活動資金として活用されます。

【忍者ウォーク2015】
日　時：5月2日（土）
　　11：00～14：00
集　合：中央通り「ツカダ鞄店」前
参加費：500円（刀作りワークショップ含む）
定　員：先着200名
詳しくはながの協働ねっと事務局の当センターまで（223－0051）

2015年4月～6月 市民協働サポートセンター まんまるスケジュール

タイトル		日時	会場	内容
初歩講座 「きほんのき」		4月22日㈬13:30～16:00 5月27日㈬18:30～21:00 6月24日㈬13:30～16:00	市民協働サポートセンター まんまる	「NPOってなあに?」法人を設立したいという人もまずはこの講座から始めましょう。ゲストに、市内NPO法人を招いて生の声を聞いています。
ステップアップ講座 NPO会計のいろは		4月18日㈯13:30～16:30	もんぜんぷら座301会議室	NPO法人の多くは3月末に決算をむかえます。この機会に会計の目的や必要性などの基本と、NPO法人の会計実務を学びませんか。 講師：　成迫会計グループ　税理士
ステップアップ講座 広報広告のいろは		5月23日㈯	もんぜんぷら座302会議室	前半は、フリーペーパー(NPO情報誌)の編集・取材・原稿書きのコツを学びます。後半はフリーペーパー発行者同士の交流会です。 講師:　まんまるコーディネーター　寺澤順子　(フリー編集者)
ステップアップ講座 ファンドレイジングのいろは		6月20日㈯	もんぜんぷら座302会議室	長野県みらいベース（運営／NPO法人長野県みらい基金）の活動から、実際の事例を紹介しつつ、寄付やその他で活動資金を集め、より共感し、応援してもらえるように、ご一緒に考えましょう。 講師：NPO法人長野県みらい基金　大塚佳織
SCC（ソーシャル・コミュニティ・サークル） コミュニティビジネスを目指す働く世代のための交流会		毎月原則 第一金曜日13:00～15:00 4月3日、5月8日、6月5日	もんぜんぷら座304会議室	まちづくり・住まう・観光・芸術・国際化・ネット広報・・・いろんな分野で夢に向かって頑張る仲間と会って話そう！そしてお互いを応援しあおう！
新！元祖 NPOカフェ まんまる	あなたはつながってますか？	4月21日㈫13:30～15:30 （企画／OhanaFarm　亀垣嘉明さん）	市民協働サポートセンター まんまる	シリーズ「食と農の座談会」がスタート!年4回の開催予定です。 一回目は、地元で野菜を売る農家はどんな事を考えているのか?地産地消的な野菜の作り方、売り方について農家の頭の中を探ります。そこには深い思いが込められています。また、地産地消のその先にあるものは何か?地産地消と地域社会の関係について考えていきます。
	古き良き時代にタイムスリップ	5月19日㈫13:30～15:50 （企画／昭和100年の会）	市民協働サポートセンター まんまる	古い時代の文化遺産である蓄音機のレコード鑑賞を通して、それを発明したエジソンの偉大さに触れ、何かを発見することの大切さについて改めて考えてみませんか？誰もが親しめる懐かしの曲たちが、人と人とをつないでくれます。

NPOカフェ まんまる 企画者大募集！

お茶でも飲みながら、気軽にお互いの自己紹介や情報交換をして交流を深めていただければと、スタートしたNPOカフェ“まんまる”。「人が集まれば、何かが生まれる」をキーワードに、様々なテーマや形で毎月開催しています。

自団体の特徴を生かした交流会を企画・運営していただけるNPO団体を募集中です！楽しい企画をお待ちしております。

企画費／10,000円（1企画）　※事前のセンタースタッフとの打ち合わせなどを含みます

開催日／基本第3火曜日　※平成27年6月以降毎月

まんまるピックアップNEWS

みんなで集まり・しゃべり・笑った
ボランティアとのつどい開かれる

ボランティアの過去と今と未来を語る

年に一度、長野市のボランティア団体、そしてボランティアや市民活動に興味のある人たちが集まり開催される「ボランティアのつどい」が今年は3月1日に開かれました。当日は肌寒い中でしたが、会場となった長野市ふれあい福祉センターは、たくさんの来場者の熱気に包まれました。

つどいは「シンポジウム」で幕開け。ふれあい福祉センターの20周年に合わせ、「ボランティアのこれまでとこれから」について語り合いました。時折聴衆にもマイクが向けられ、丁寧な議論が交わされました。

センター内には所狭しとブースが並び、食べ物や雑貨が売られたり、体験コーナーがあったりと多種多様なボランティア活動の一端が覗けました。また、出店者と参加者の垣根を越え、談笑したり情報交換したり、積極的に交流している様子が印象的でした。

最後は、閉会式へ。知らない人同士も、輪になって手をつなぎます。テーマソング「一人の手」に乗って、簡単な振り付けのダンスをすると、不思議なまでの一体感が。最後は「おーっ！」と手を空に突き上げ、それぞれのこれからの活動の発展を誓いました。

「大勢が来てくれてうれしく思った」「かたく考えず『自分にできることがボランティア』なのでできることからやってみればいい」と笑顔なのは、実行委員長の若山典子さん。つどいの参加を通して「ボランティアの芽」を育てたり「ボランティアの樹」を伸ばしたり、そんな特別な日になったように思います。

～パワフルな団体を紹介します～

スポーツで地域のつながりを
NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北

地域の教育関係者によるシンポジウム

東北中学校を拠点に、「いつでも」「だれでも」「どこでも」「いつまでも」を合言葉に活動する地域総合型スポーツクラブです。

2月28日「地域のスポーツ振興を考える」と題したパネルディスカッションが行われ、保護者など関心のある住民が参加していました。

討論の柱は、小・中・高の連携のあり方、幼児期からの運動のあり方、中学の運動部活動のあり方でした。

子どもの運動不足が叫ばれる中、地域で運動ができる環境づくりはとても大切で、長野市では小学校と中学校が隣接する地域が多くありますが、なかなか連携が取れていないそうです。地域でのスポーツ活性化のために、小中高の連携を図ることは重要な課題とのこと。幼児期においては、昔と比べると活動量が大幅に減っているというデータがあり、その要因は3つの間「仲間」「時間」「空間」がないこととのこと。NPOでは8歳以下の子供たちが群れて遊べる活動にも取り組んでいます。今後は大人も一緒に楽しめる環境や機会が必要との意見が出ました。

理事の柳見沢宏さんは「スポーツが地域をつなぐことを改めて確認できた。環境を整えることが必要。地域の意見や要望を集約して発信し、地域のネットワークを形成することもNPOの役目」と話しました。

NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北
☎026－296－9918